

かけはし

第53号 平成14年3月11日発行
千代田区教育委員会



みんなそろって、ここにうは



「4がつから、ここでべんきょうするんだね。いまからわくわくします」

昌平小体験入学

☆平成14年度の教育目標(概要)

☆千代田区型幼保一元施設
「いずみこども園」

☆「千代田区の中等教育将来像素案」を
作成しました

☆小・中学校で
新しい教育が始まります

こくごのじゅぎょうをけんがくし、
そのあとじゅぎょうにさんかしました。
とてもたのしかったです。
1ねんせいのおにいさん、おねえさん、
ありがとう。
きゅうしょく、とてもおいしかったです。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

千代田の将来を担う人材の育成と、
千代田らしい新たな文化の創造めざして

平成14年度の教育目標(概要)

教育は、常に、普遍的でしかも個性的な文化の創造と豊かな社会の形成に貢献することを期すとともに、社会の変化に対応して、絶えずそのあり方を見直しながら行われなければなりません。

このような考えに立ち、千代田区教育委員会は、教育基本法に則り、千代田区の教育の歴史と伝統を踏まえ、我が国の歴史や文化を継承・発展させることのできる、心身ともに健康で人間性豊かな区民の育成を願い、教育を推進します。

そこで、以下の「教育目標」に基づき、千代田に誇りと愛着をもち、将来を担う人材の育成と、学習とスポーツ活動を通じて、生涯にわたり区民が生きがいのある社会生活を営むことができるよう、積極的に教育行政を推進します。

千代田区教育委員会は「千代田区新世紀構想」に示された「都心の魅力にあふれ、文化と伝統が息づくまち千代田」の基本理念の基に、未来を担う子どもたちに対して以下に示した人間像の育成に向けて教育を推進します。

- 社会規範を身に付け、社会に貢献しようとする人間
- 個性を磨き、生涯を通じて学ぶ意欲と創造力をもった人間
- 社会の変化に対応し、国際社会で活躍できる人間

また、学校教育及び社会教育を充実し、誰もが生涯を通じて主体的に学ぶことのできる生涯学習社会の実現を図るとともに、受け継がれてきた伝統文化を育てながら、千代田らしい新たな文化を創り出していきます。

そして、教育は、家庭、学校及び地域のそれぞれが責任を果たし、連携して行われなければならないものであるとの認識に立って、千代田区に住み、働き、学び、集う、すべての人々が教育に参加することを目指します。

子どもと保護者の視点に立って創設します

千代田区型幼保一元施設「いずみこども園」

保一元施設を創設するため、千代田区立こども園条例を制定しました。

◆ 入園要件が広がりました

保育園の対象となる「保育に欠ける乳幼児」だけでなく、「保育が必要な乳幼児」の入園枠を設けています。

これにより、「相談相手もなく、子育てに不安がある」「長時間保育が必要だが、幼稚園教育も受けさせたい」などの保護者のニーズに応えることができます。

◆ 一貫した乳幼児育成を行います

保育所保育士指針と幼稚園教育要領に基づき一貫した育成方針を作成し、0歳時から5歳児までの継続した育成を行います。

◆ 一元的な育成を行います

今まで、保育園と幼稚園はそれぞれの専門性を高めながら、子育ての知識・技術などのノウハウを蓄積してきました。1人の園長のもとで幼稚園教諭と保育士が協働することにより、お互いの能力を向上させ、より良い子育て環境を作ることができます。

◆ 保育時間のパターンが選べます

保護者が保護者の勤務時間帯や勤務場所などの就労形態に合わせて、保育時間のパターンが選択できます。

短時間保育の場合、保護者の都合により、一時的に保育が必要になった在園児については「預かり保育」が利用できます。

◆ 保育料は、所得と保育時間に応じます

保護者の所得状況と保育時間のパターンに応じて保育料を定めます。

近年、少子化や核家族化の進行などにより、社会の状況が大きく変化するなかで、保護者の中には、育児に対する不安を持ち、孤立感を深めている人もおり、乳幼児の育成環境の整備が強く求められています。

そこで、千代田区では、現在のいずみ保育園・和泉幼稚園に従来の保育園・幼稚園の枠を超えた千代田区型幼保一元施設「いずみこども園」を4月1日開設することといたしました。

いずみこども園の特徴

◆ 条例を制定しました

現在、保育園は厚生労働省、幼稚園は文部科学省と、所管官庁が分かれているため、制度的には両者の壁は厚く、地域の子どもが年齢や保護者の就労形態で区別され、同じ内容の育成課程を受けられないことがあります。

そこで、千代田区では、一つの施設で一貫した保育・教育を行う千代田区型幼

こども園保育時間の代表的なパターン

		3歳～5歳		0歳～2歳
		長時間保育	短時間保育	
午前 7:30	早朝保育		#	保育時間は 相談のうえ 決定します
9:00				
午後 2:00	通常保育		#	
6:30				
7:30	*延長保育			* (1歳児 クラス以上)

こども園の保育料・給食費

年齢・区分	保育料 (月額)	給食費 (月額)	
0～2歳児	所得に応じて 0円～57,500円	保育料に 含まれています	
3～5歳児	長時間 保育	所得に応じて 0円～10,900円	7,100円(年12回)
	短時間 保育	所得に応じて 0円～5,500円	4,000円 (8月を除く年11回)

※ 延長保育料は、
所得に応じて月額0円～5,700円が別途かかります
預かり保育料は2時間あたり200円別途かかります

【こども園に関するお問合せ】

いずみこども園開設準備室



「千代田区の中等教育将来像素案」を作成しました

千代田区の中等教育将来像素案概要

教育委員会では、平成12年8月の中学校教育検討会報告を受け、新たな中等教育の具体化を図るため、13年8月に教育委員会試案を作成しました。その後、試案の内容について区民、保護者及び学校関係者等の意見を幅広く伺うため、説明会を開催するとともに「中学校将来像検討区民会議」を同年8月に設置し、この間、たくさんの方々から率直なご意見・ご要望をいただきました。このたび、それらの貴重なご意見を反映させ、試案の内容に修正を加え、「千代田区の中等教育の将来像素案」として取りまとめました。

1 千代田区における中等教育改革の方向

(1) 日本の未来を担う人材育成
日本と世界が激しい変化に直面するなか、国家の発展、世界貢献のため、明るい未来を切り拓いていく担い手となる人材の育成が重要。社会病理の拡大予防の観点からも教育への期待は大きい。

(2) 千代田区での教育改革

本区は近代教育発祥の原点であり、教育に力を注いできた。平成10年以降、教育の目的やシステムの検討を進めてきた。中等教育の改革の中心施策は、中高一貫教育校の新設、特色ある学校づくりなど。

(3) 公教育の使命と中高一貫教育

私立学校への進学者が多いのは、区立中学校の魅力の減少と受け止め、その復権に努める。高校が義務教育化しており、中高一貫教育への希求が高まっている。本区は、基礎的自治体として未来の人材育成に一定の役割を果たすために、区立中等教育学校を設置する。

2 適正規模の基本的な考え方

(1) 集団の中の教育の充実

① 人との関わりの中で社会性や豊かな人間性を育てる

* 一定規模以上の集団やクラス替えは、自分と異なる考え方や生活環境があることを知り、これを認め、尊重することによって自己を高める機会を増やす。

② 集団活動（授業や学級活動等）の活性化により、自己の能力や適性を磨く

(2) 教育指導と学校運営の充実

① 多様な教育指導の展開
* 選択幅の広い教育に対応し指導力を維持・向上するための教員数の確保

② 校務分掌（教員が担当する授業以外の事務）の軽減

* 学校規模の適正化を図り、一定以上の教員を確保することで、校務負担の軽減を図る。

3 中学校の適正規模

学級数 12学級

(1学年4学級・1学級30人以下)

現在 1学級あたり平均約33人
生徒数 1学級あたり300〜360人
学校数 3校程度

4 区域外就学生徒に関する考え方

今後は、抑制していく方向で具体的な方法を検討する。

* 現在は5中学校平均で44.7%
(551人・平成13年5月1日時点)

5 これからの中等教育のあり方

(1) 千代田区の中等教育に共通する目標
① 生き生きと楽しく通える豊かな心の

育つ中学校

② 基礎基本の学力がしっかり身に付き、個性が伸長する中学校

③ 健康で体力のある子どもを育てる中学校

(2) 学校選択制の推進（通学区域の弾力化）
千代田区全域を対象に、学校選択制を平成15年度から実施

・平成14年度から完全学校週5日制スタート、新学習指導要領完全実施
・特色ある学校づくりを推進

6 中等教育学校（区立）の新設

平成18年4月開校

◇一つの学校として一体的に中高一貫教育を行う

◇高校受験のない6年間を活用した特色ある教育課程

◇学力を身に付けた、教養豊かな未来の人材を育成

【基本的な枠組】

◇全日制課程 ◇単位制普通科（後期課程）
◇24学級規模（1学年4学級×6学年）
◇二学期制 ◇2-2-2型の節目

(1、2年基礎学力養成期 3、4年充実期 5、6年発展期)

【入学条件】

◇区立小学校卒業予定者 ◇6年間を通して在学すること ◇定員超過の場合は面接、作文、集団活動等による選考（学力試験はなし）

7 在来型中学校の充実

【共通の基盤】

① 学力の向上 ↓ ○基礎・基本の確実な定着と個に応じた指導の充実 ○教員の指導力向上と授業改善

② 豊かな人間性の育成 ↓ ○奉仕活動や体験活動の促進 ○道徳教育の充実

③ 国際社会で活躍できる力の育成 ↓ ○国際理解教育の推進 ○情報教育の推進 ○環境教育の推進

④ 進路選択とその実現 ↓ ○個性を伸ばす教育の推進 ○勤労観・職業観を幅広く含む教育の推進

【特色化】

基本的な方向 ○国際理解教育 ○情報教育 ○福祉教育
(学校との協議のもとに進める)

8 中等教育学校及び在来型中学校の配置

学校数は将来的に3校（在来型中学校2校、中等教育学校1校）
① 在来型中学校 麴町、神田の各地区に1校ずつ設置
② 中等教育学校 都立高等学校の移譲を受け、区立中学校と併せてこれを母体とし、区の中央部に設置する方針

移譲を希望する都立高等学校の条件

① 区立中等教育学校の想定規模に見合う敷地及び校舎を有している。
② 区のはば中央に位置し、交通の利便性が高く、周辺環境が良好である。

【区の方針に基づく学校の配置案】

	中等教育学校	在来型中学校
第1案	九段高等学校敷地 (九段中・九段高校を母体とする)	2校
第2案	九段高等学校敷地 (一橋中・九段高校を母体とする)	2校
第3案	一橋中・一橋高等学校敷地 (一橋中・一橋高校を母体とする)	2校

※素案の内容(全文)は、区のホームページ <http://www.city.chiyoda.tokyo.jp> でご覧いただけます。

区立中等教育学校の教育内容

自分のライフプランを築き、自己実現のための力を身につける進路学習をする

〈例えば次のような学習〉

- ◇キャリアガイダンス ◇職場体験学習 ◇資格技能習得や上級学校進学へ向けた科目の設定
- ☆時間制のなかに「自己の生き方」や主体的な進路選択の力を学ぶ授業を設定。
- ☆6年間をかけ、繰り返し自分を知ったり、様々な試みをしながらライフプランを築いていく。

継続的な心の教育を通して、人としての在り方や生き方を学び、社会人になる準備をする

〈例えば次のような学習〉

- ◇幅広い異学年集団での交流 ◇介護体験、保育体験 ◇地域でのボランティア学習
- ☆12歳から18歳まで合同で学校行事に取り組み、先輩から学ぶ。
- ☆幼児や高齢者との出会いを通して人や地域から学び、豊かな人間性を育む。

一人一人のよさを発掘し、そのよさを伸ばすシステムを用意する

〈例えば次のような学習〉

- ◇科目の種類、学習の深さ、授業速度に対応した選択幅のある教育課程
- ◇生徒自身による時間割作成（後期課程） ◇発表学習やディベート学習
- ◇海外派遣交流や山村留学 ◇教科教室制、ノーチャイム制 ◇課題研究（卒業プロジェクト）
- ◇社会人講師による専門、探求科目 ◇区内の大学や専門学校と連携
- ◇地域の人材を活用した講座、科目
- ☆少人数授業の実施により、じっくり学ぶ生徒や発展的に学びたい生徒に対応する。さらに進んだ学習を希望する場合は、学年を越えて授業を受けることも可能。
- ☆生徒一人一人の興味関心に応じて、自ら選んだ分野を探究する。



小・中学校で新しい教育が始まります

今年4月から区立小・中学校では、新しい教育指導要領に基づいた教育が始まります。

「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、基礎・基本的な内容を確実に身につけさせることと、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむことなどを大切にしていけます。

「生きる力」とは？

- ・ 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力
- ・ 自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性
- ・ たくましく生きるための健康と体力

一 完全学校週5日制が始まります

学校週5日制は、学校、家庭、地域社会の三者が協力して、子どもたちに「生きる力」をはぐくみ、健やかな成長を促すものです。

土曜日や日曜日を利用して、家庭や地域社会で子どもたちが様々な生活体験や自然・社会体験、文化・スポーツ活動などを豊富に経験することが望まれます。

千代田区の

完全学校週5日制への対応

新教育課程の実施を目前にして、学力低下を懸念する声がひらひらしています。千代田区では、「基礎学力向上プラン」と「ふれあいスクール」を柱に、完全学校週5日制に対応していきます。

①「基礎学力向上プラン」の実施

個性の伸張と学力の確実な定着のために、少人数指導の実施や、小学校における教科担任制の推進などを盛り込んだ「基礎学力向上プラン」を実施します。そのため、区独自の非常勤講師等を配置します。

平成14年度から教科担任制を小学校2校で導入し、ゆくゆくは全小学校へ拡大していきます。

また、千代田区独自の学力達成度調査を毎年実施します。

②「区立ふれあいスクール」

休日となる土曜日や日曜日には、学校施設を活用して、子どもたちが親子で楽しむスポーツ、音楽等の教室、科学好きな子どもたちのための科学教室などを実施する「区立ふれあいスクール」を設置します。

③「土曜日の学習相談教室の開催」

さらに、土曜日は、子どもの学習状況に応じた個別指導による発展的な学習相談の機会を適宜設け、社会人や大学生等を積極的に活用します。放課後や夏期休業中についても、補習等を開催する予定です。



二 「総合的な学習の時間」の新設

「総合的な学習の時間」は、教科等で身につけた知識・技能等を基盤として、子どもたちが自ら課題を見いだし、自分で判断し、学び方や調べ方を身につけ、自ら進んで表現できる力を養い、実際の生活に生かしていく力をはぐくむことなどをねらいとしています。具体的な学習内容は各学校で独自に定めることができ、次のような学習を行います。

- ① 国際理解、情報、環境、福祉、健康など従来の教科をまたがるような課題に関して学習
- ② 子どもたちの興味・関心に基づく課題に関する学習
- ③ 地域や学校の特色に応じた課題に関する学習

平成12年度から段階的に実施することができ、千代田区立の小・中学校では全ての学校で既に実施しています。

ここでは具体的な例として、九段小の自然観察についてご紹介します。

九段小の自然観察

2月15日(金)、九段小5年生が、指導員に東京女子体育短期大学講師松田邦雄氏と田園調布雙葉小学校講師永井昭三氏をお迎えし、九段小の福岡先生と科学技術館の職員の協力で作成した「自然観察の手引き」などのパンフレットをもとに、北の丸公園の植物や、お堀に集まる鳥や昆虫などの自然観察を行いました。公園内の樹木には常緑樹と落葉樹があること、枝の広がりかたに



いくつか種類があること、足下に咲いている小さな花の名前の由来などを、実際に見たり手に取りながら、ひとつひとつ丁寧に教えていただきました。

児童たちは、双眼鏡で水辺の鳥の様子を観察したり、木の芽やつぼみ

当日使った手引きやパンフレット類



を虫眼鏡でのぞいたりして、厳しい冬の寒さに耐え、春に向かって準備をしている身近な自然にふれました。



特色ある学校づくりの推進

新しい学習指導要領では、各学校が創意工夫を生かした特色ある学校教育を展開し、特色ある学校づくりができるよう、各学校の自由度を拡大します。これにより子どもの実態により即した個性を生かす教育が展開できるようになります。

千代田区が進めている

特色ある学校づくりの一例

- ・ 幼稚園、小学校における英語教育の実施
- ・ 幼稚園、小学校の連携
- ・ 一斉清掃など地域への奉仕活動



パソコンの操作を幼稚園児に紹介しています
幼稚園と小学校の連携 番町小

全国小・中学校作文コンクール
読売新聞社賞受賞おめでとう



中1年 葉さん
平林 万葉さん

「第51回全国小・中学校作文コンクール」(読売新聞社主催、文部科学省、各都道府県教育委員会後援、(財)日本漢字能力検定協会、J.R.東日本、J.R.東海、J.R.西日本協賛、ぎょうせい協力) 中央審査で、平林万葉さん(麴町中1年)の「うそつきイエローと呼ばれて」が中学生の部・読売新聞社賞を受賞しました。

アメリカでクラスメートから差別された体験を通して、痛みや悲しみを紹介。人種差別の根深さを感じつつ、人々が共に平和で幸せに生きるために、差別に正面から立ち向かうことを訴えています。

平林さんは「差別には冷静にならなくてはいけない。感情的になるとかえってひどくなる。けんかになる。でも、冷静になるのは難しい。」と言葉を一語一語かみしめるように話してくれました。

道徳の時間にこの作文がとりあげられ、「差別を始めて知った」「差別は怖い」などの感想を聞き「思いが伝わった」と笑みを浮かべていました。

将来は、世界で戦争や貧困で困っている人々のために働きたい、宇宙飛行士にもなりたいと笑顔で話してくれました。

子どもたちが人権尊重をアピール
「人権意識啓発パネル展」

人権週間にあたり人権尊重意識の向上を目的とした「人権意識啓発パネル展」(男女平等・人権課主催12月4日～10日千代田区役所1階)に番町小5年生の標語84点、お茶の水小5年生のポスター31点、麴町中1年生の作文が展示されました。

「はじめ、悪口はやめよう」と呼びかける作品、やさしさや思いやりをテーマにした作品、手を差し伸べるイラストや、笑顔で手をつなぐ人々の姿が描かれたポスターなど子どもたちの「人権尊重」への訴えに、区役所を訪れた人々も、足を止めて眺めていました。



ちよつと緊張、でも楽しかったヨ
フランス料理を楽しむ集い



2月15日(金)麴町小にて「フランス料理を楽しむ集い」

(財)東京都府士協会千代田・港支部主催)が開催され、1年生44名が参加しました。机を合わせてテーブルをつくり、真っ白なクロスをかける、教室がレストランに様変わり。各テーブルに白衣のシェフがつき、食材やテーブルマナーなどのお話を聞きました。

「フォークとナイフはむずかしい。でも、とてもおいしかった」「苦手の野菜も食べたらおいしかった」といった子どもたちの喜びの声がたくさん聞かれました。



みんなで励ましあって完歩したゾ
子ども体験教室
ダイナミックチャレンジ

2月2日(土)、3日(日)子ども体験教室「ダイナミックチャレンジ」が開催されました。これは、千代田区と小平市にある区立花小金井学園(約30km)を夜を徹して歩きとおすもので、中学生は往復、小学生は学園から区までの片道に挑戦しました。2日午後4時、九段社会教育館を出発した中学生10名は、午後11時半過ぎに花小金井学園に到着、ここで小学生35名が合流しました。当日は最低気温4℃、午前6時すぎから雨が降り出しましたが、午前9時全員が無事完歩しました。



「完歩するぞ!」「オー!」花小金井学園にて

三学期のできごと



九段小にて
連合文化祭が開催されました



新三時橋、あいあい橋落成式を盛り上げた
お茶の水小マーチングバンド



「エースストライカーをめざして!」
フットサル講習会 総合体育館



「おいしいきゅうし、ありがたう」
和泉小・和泉幼の交流給食

貴重で充実した11日間でした
ウエストミンスター
生徒海外交流教育派遣

アメリカ同時多発テロ事件後、延期されていた「千代田区立中学校生徒海外交流教育派遣」が1月24日～2月3日に実施され、生徒14名が、英国ウエストミンスター市に派遣されました。

2月4日(月)の区長室での帰国報告会では、英語はもちろん「イギリスの歴史」や「盲導犬」等各自取り組んでいた研究成果を区長に報告しました。またウエストミンスター市立学校やホームステイでの体験について「生活習慣の違いに驚いた」「派遣で得た経験を学校みんなに伝えたい」「日本に招く時のために、英語と日本の文化や歴史についてもっと勉強したくなった」など、長旅の疲れも見せず、熱く語りました。



「とても貴重な経験になりました」
石川区長に成果を報告しました 区長室にて

事件を静かに後世に伝える
松本訓導殉難の碑



井の頭公園玉川上水のほとりに巨大な殉難の碑が建てられています。

大正8年11月20日、当時の麴町区永田町小学校児童五百七十名が遠足で井の頭公園を訪れた際、玉川上水に落ちたひとりの児童を助けようとして殉職した松本虎雄訓導の石碑です。

幸い児童は助けられました。松本訓導の命を捧げて児童を救おうとした尊い行為に、市民からもたくさんの追悼が寄せられました。翌年11月当時の麴町区有志によって、この地に松本訓導殉難の碑が建てられました。

井の頭公園を訪れた際は、ぜひお立ち寄りください。



和泉小学校ビッグバンド部「第2回定期演奏会」にぜひ来てね
フル編成のビッグバンドで、子どもたちが、グリーン・ミラーや、ベニー・グッドマンのスタンダードを演奏します。スイング感あふれるパワフルな演奏をお楽しみ下さい。
曲目/イン・ザ・ムード シング・シング・シング・シング・シング ハウ・ハイ・ザ・ムーンほか
日時/平成14年3月24日(日) 開場/午後1時 開演/午後1時30分
会場/和泉小学校 入場無料 【問合せ】和泉小学校 3866-3939 長岡

随想

きょうい

「有事人生」(事有るが人生) これは私の座右銘。様々な出来事に遭遇しても、それに積極的に対処し、乗り越える体験を積み重ねるのが人生。「無事人生」などを願っていたら、毎日毎日をハラハラして生きていかねばならぬ。

激動の二十一世紀、次々と事件が起こる。世界情勢も政治も経済も…事有りが続く。教育界も同じ。毎日のニュースに事欠かない。子どもが親が、教師が…起こす事件にしばしば驚かされる。しかし、「事有り」は負の様相だけではない。新しいこともある。新教育課程に基づく学校教育がこの四月から実施される。本区の幼稚園・小中学校の研究主題と実践、研究推進校(文科省・都教委・区教委指定)の研究発表の内容を見てもその準備、計画は万全である。とくに学校週5日制(いわゆる土曜休日)への対応についても各園・各校から様々な意見、考えが寄せられている。「子どもに対し、計画的な休日の過ごし方や生き方・学び方の指導・啓発する」などにかかわるものである。なかでも学校(園)施設を可能な限り開放するとの積極的な対応が伺われる。

チャンス到来。子どもたちの教育の在り方について本来的な姿を復活させる時が来るのである。私は十数年来「子どもは家庭の子、学校の子」だけではない、「町の子」でもあると力説してきた。端的に申せば、子どもの成長には、住んでい

る町の雰囲気や歴史・伝統、習俗、生活の規範意識、そこで働く人々の姿や住民の触れ合い(人間関係)の様子等々が大きく影響する。そこで、子どもは町の中で町の子として育てられなければならないし、地域共同体の中での生育が欠かせない。自分の子ども時代を思い起こしてみたい。幼児の頃、教会の日曜学校で紙芝居、近く

新しい教育がスタートする 更に町の子を 育てるチャンス

千代田区教育委員長職務代理者
栗岩 英雄



の神社社殿の階段に腰掛けてお年寄りのお話を聞く。楽しかった。道を歩くと「ビデオおちゃんどこへいくの、気を付けてね」と八百屋さんや魚屋さんなどから声がかかる。小学生時代、山の好きな級友の父親に連れられて初めて富士登山した時の感動はいまだに心に残る。材木屋さんの兄ちゃんのリヤカー押しを手伝った後でキャッチボールの

相手になってもらった。夕涼みの縁台将棋も懐かしい。中学生になった最初の年、学習内容が全く分からなかったが、落第点にならなかったのは隣人の大学生の手助けのおかげだった。等々、そうしたことから町内の人々と顔見知りになって行った。地域の人たちの助け合いの様子も知った。それがある時は私の問題行動への抑止力ともなっていた。町の子はこうして育っていく。

一時期、子どもたちは不幸であった。勉強、勉強と追い立てられ、学校の子、塾の子、そして勉強一点張りの家庭の子とさせられてしまった。子どもの成長には、勉強と、学習とのバランスが必要である。幸い本区の町内会や社会教育関係の子どもたちを大切にした活動が盛んである。加えて、本区の特徴である、本の町、情報産業の町、企業の町、大学・専門学校、病院の町、政治の町、そして江戸城(皇居)を中心とした歴史の町等々を調和よく取り込んだ子どもたちのための土曜休日プログラミングが地域共同体の更なる構築の中から生まれてくることを望みたい。もちろん、学校側からの提案やアドバイスも期待できるだろう。

幸い区当局でも地域共同体の再構築や土曜休日のための必要予算も計上されると聞く。願ってもないことだ。

くりいわ ひでお
千代田区教育委員長職務代理者

編集後記

桜のつぼみがふくらみ、木全体がこいピンク色に染まる頃、今年もたくさんの思い出を胸に卒業生は巣立っていきます。卒業生のさらなる活躍を期待します。

さて、平成14年度の教育目標をお知らせしました。目標の実現には、学校、家庭、地域の連携が欠かせません。みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いします。

千代田区の中高等教育将来像素案の概要を紹介しました。教育委員会は、今後も多くの方々のみなさまにご意見をいただき、新たな中等教育の実現に努めていきます。

新学習指導要領に基づく教育が始まります。既に総合的な学習の時間は、各校先行実施し、実績を積み重ねています。4月からはその成果を生かし、ますます発展させていきます。

花開き、新学期が始まります
「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。
次号かけはし54号は5月末日発行予定です。

教育広報「かけはし」第五十二号
平成14年3月11日発行
編集発行/千代田区教育委員会

☎ 102-8688 千代田区九段南1-6-11
☎ (3)264-2111 内3114

きょうい

随想